

ジェネリック医薬品使用促進にかかる取組について

全国健康保険協会 福井支部

支部長 畑 秀雄

≪福井支部≫平成28年度パイロット事業実施概要

1. 『糖尿病』、『小児層』に限定したジェネリック医薬品軽減額通知の送付

以下の対象者へ軽減額通知を送付し、ジェネリック医薬品への切替を促す。（各100件／月）

【糖尿病】 **糖尿病の治療に先発医薬品を使用している加入者**

【小児層】 **小児特有疾患(※)の治療に用いられる先発医薬品を使用している小児層（5～9歳）**

※小児喘息、アレルギー等

2. ジェネリック医薬品使用割合が高い薬局の認定事業

ジェネリック医薬品の使用割合が80%以上である県内薬局に対し、福井県薬剤師会及び協会けんぽ福井支部の二者連名による認定を実施し、福井県内におけるジェネリック医薬品の使用促進を図る。

3. 医師、薬剤師を対象としたジェネリック医薬品に関するアンケートの実施

ジェネリック医薬品の使用等に関する設問を用意し、**県内医療機関および薬局に勤務する医師、薬剤師**より医療現場における生の声を聴取。ジェネリック医薬品の使用促進に繋げることを目的として実施。

◆各事業は福井県医師会および福井県薬剤師会の協力のもと連携し実施◆

1-①.『糖尿病』、『小児層』に限定したジェネリック医薬品軽減額通知の送付

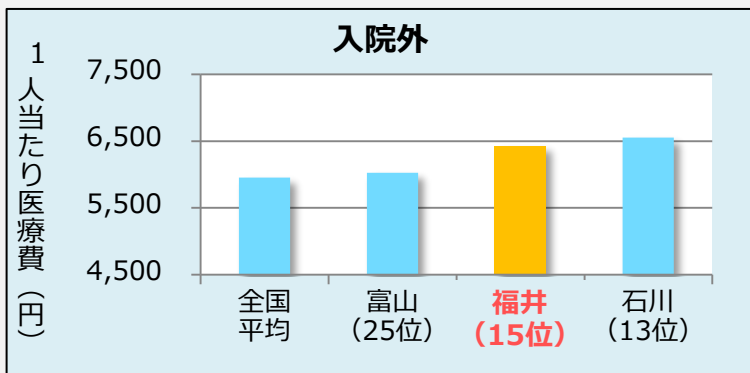
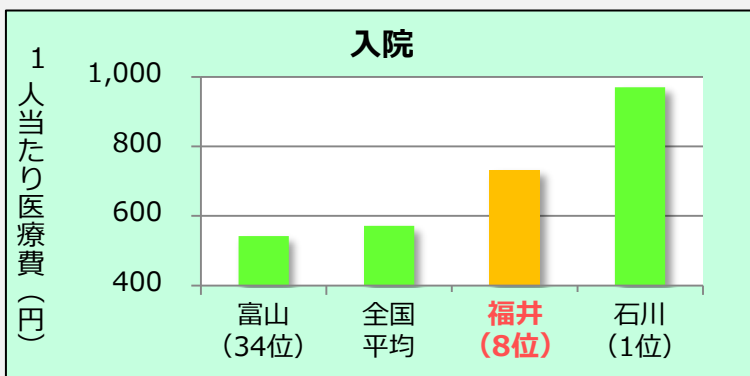
≪事業実施背景≫

【糖尿病】入院、入院外ともに糖尿病にかかる1人あたり医療費が比較的高い

【小児層】全国的にジェネリック医薬品使用割合が最も低い層であり、福井支部はそれを更に下回っている。

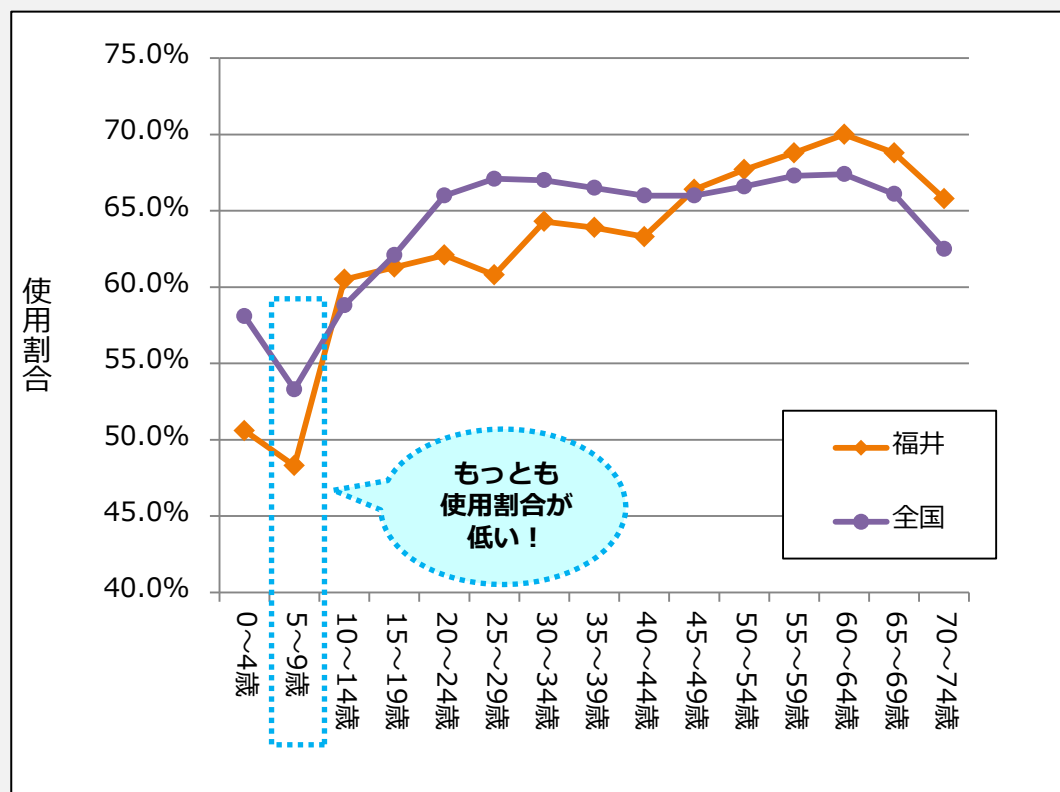
【糖尿病1人あたり医療費（北陸3県比較）】

※順位は全国支部におけるもの。



【年代別ジェネリック医薬品使用状況】

※H28.3時点 使用状況



1-②.『糖尿病』、『小児層』に限定したジェネリック医薬品軽減額通知の送付

≪使用割合伸び率まとめ (H28.5~H29.12) ≫

糖尿病
(全国**33**位)

福井 : +4.1% **全国平均 : +4.8%**

(参考) 最も伸びが高い支部 : +11.4%

(参考) 最も伸びが低い支部 : +0.3%

小児層
(全国**2**位)

福井 : +25.2% **全国平均 : +15.2%**

(参考) 最も伸びが高い支部 : +25.4%

(参考) 最も伸びが低い支部 : +6.2%

全体
(全国**14**位)

福井 : +9.1% **全国平均 : +8.3%**

(参考) 最も伸びが高い支部 : +15.1%

(参考) 最も伸びが低い支部 : +5.7%

※小児層通知は平成29年度以降も支部独自事業として改良を加え継続実施中。

≪ (参考) 小児層あて通知見本 ≫

910-0804
福井市高木中央●●●●
〇〇ハイツムビル号室

被保険者 ○○ ○○ 様
被扶養者 ○○ ○○ 様
(お問合わせ番号 : 1611-50)

本件に関するお問い合わせ先
全国健康保険協会 福井支部
企業総務グループ
TEL : 0776-27-8301
受付時間 8:30~17:15
(月~金曜日、祝日除く)

必ずご本人が開封してください。

ジェネリック医薬品の使用でお薬代を減らすことができます

平成27年12月に処方されたお薬をジェネリック医薬品に切り替えると、次の通りお薬代の軽減が見込まれます。

お薬代の軽減可能額 310円~

処方されたお薬と軽減額の明細

※お薬代、負担割合は診療当時の情報掲載しています。
※10円未満切り捨て。

薬名	お薬代
先発医薬品名	窓口負担 (3割)
□□薬局	
シルデックドライシロップ 1.25%	440円
アルメク軟膏 0.1%	350円
	円
合計	790円

ジェネリック医薬品に切り替えることで軽減できるお薬代

	180円~
	130円~
	310円~

●薬局で処方された「先発医薬品」と主成分が同一であるジェネリック医薬品に切り替えた場合のお薬代の軽減可能額の試算です。
●試算はお薬代のみ対象としています。実際に医療機関や薬局へお支払いになる金額には、お薬代以外の調剤等に際する費用が含まれていますので、継続的なお支払額が切り替え期と変わらない、または高くなる場合もあります。

薬事の注意事項も併せてご覧ください。

全国健康保険協会 福井支部
協会けんぽ

2. ジェネリック医薬品使用割合が高い薬局の認定事業

《事業実施背景》

厚生労働省より示された「平成30～32年度末までの間のなるべく早い時期に使用割合を80%以上とする（実施当時）」といった目標を鑑み、使用割合（数量ベース）が80%以上の県内調剤薬局を認定。

- 県薬剤師会および保険者からの説得力のある認定により、薬局側のジェネリック医薬品に対する意識向上を狙った。
- 意識向上に伴い患者側へのジェネリック医薬品に関する案内が充実し、気軽に相談できる環境整備にも寄与。

《認定状況》

28年度 44薬局／県内262薬局（県内薬局の16.8%）

29年度 85薬局／県内264薬局（県内薬局の32.2%）

※ 薬局の認定事業は平成29年度以降も支部独自事業として改良を加え継続実施中。

《認定証（見本）》



3-①. 医師、薬剤師を対象としたジェネリック医薬品に関するアンケートの実施

《事業実施背景》

福井支部では、平成25年度にも医師、薬剤師を対象としたアンケートを実施したが、その後のジェネリック医薬品に対する意識等の変容を調査すべく実施。

《回答状況》

医師 276名 / 1,062名 (26.0%)

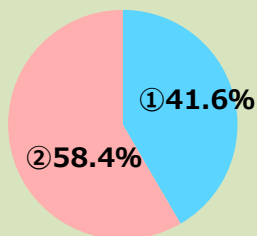
薬剤師 164薬局 / 261薬局 (62.8%)

《医師と薬剤師における意識の差》 双方のアンケートに複数同じ設問を用意し、意識の差を検証した。

【1】貴医療機関（貴薬局）では患者に対しジェネリック医薬品への切り替え希望を確認されていますか？

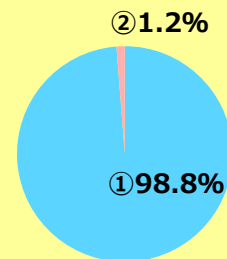
医師の回答

	回答数	割合
①はい	104	41.6%
②いいえ	146	58.4%
合計	250	100.0%



薬剤師の回答

	回答数	割合
①はい	160	98.8%
②いいえ	2	1.2%
合計	162	100.0%

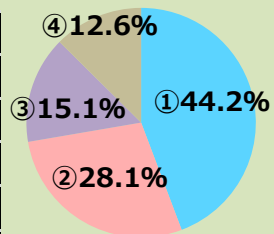


3-②. 医師、薬剤師を対象としたジェネリック医薬品に関するアンケートの実施

【2】ジェネリック医薬品の処方について、どのような考えをお持ちですか？

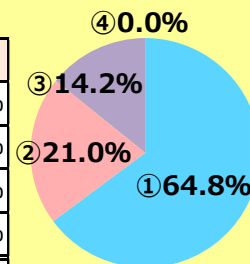
医師の回答

	回答数	割合
①積極的に処方	123	44.2%
②薬効によっては積極的	78	28.1%
③患者によっては積極的	42	15.1%
④積極的には処方しない	35	12.6%
合計	278	100.0%



薬剤師の回答

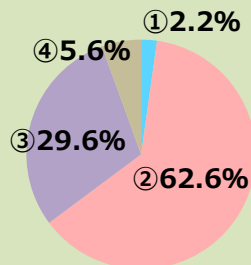
	回答数	割合
①積極的に説明・調剤	105	64.8%
②薬効によっては積極的	34	21.0%
③患者によっては積極的	23	14.2%
④積極的には説明・調剤していない	0	0.0%
合計	162	100.0%



【3】患者からジェネリック医薬品について、切り替え希望やご相談はありますか？

医師の回答

	回答数	割合
①頻繁にある	6	2.2%
②たまにある	169	62.6%
③ほとんどない	80	29.6%
④まったくない	15	5.6%
合計	270	100.0%



薬剤師の回答

	回答数	割合
①頻繁にある	9	5.5%
②たまにある	131	79.9%
③ほとんどない	23	14.0%
④まったくない	1	0.6%
合計	164	100.0%

